

参加募り増強を実現

日本塗装機械工業会

会長 木下 真生



暑中お見舞い申し上げます。

今年がどのような夏となるのか、この原稿を書いている今の時点で予測することは難しいのですが、願わくば災害の無い、たいへん暑くても平穩な夏となることを願っています。

かつ、このたび日本塗装機械工業会(CEMA: Coating Equipment Manufacturing Association, Japan)の会長職を仰せつかり、いろいろな逡巡はありましたが1期2年という期限付きで、約15年間お世話になったこの業界に少しでも恩返しができればという気持ちで引き受けることにいたしました。

36年の歴史と伝統を持つこのCEMAの会長として一体何ができるのか、とにかく先輩諸兄また会員諸氏のお力と協力のもとに何かお役に立てること、またこの先のCEMAの歩みに少しでもプラスになることを考えてやっていく所存であります。どうか関係諸団体の皆様方のお力添えもよろしくお願い申し上げます。

CEMAという団体は、考えようあるいは見方によっては非常にユニークな団体ではないかと思っております。どういふ点かと簡単に申し上げますと、要は、この団体にはそれぞれの団体の性格を特徴づけるような「範囲決め」的なものが無く、いわば「塗装」という大きな冠を戴いている団体ではないのかということですね。つまり他の様々な団体では必ずその団体が結束するにあたっての

キーワードが見受けられます。当然といえば当然ですが、例えば大きな団体である日本塗料工業会(日塗)さんは、260ほこの会社が「塗料」というキーワードのもとに結束しておりますし、日本塗装工業会(日塗装)さんは2500の会社を束ねておられ、そのキーワードは「建築塗装」です。

またCEMAと非常に近い関係にあります日本工業塗装協同組合連合会(工塗連)さんは、金属塗装をキーワードにしての団体です。さらにCEMA前会長の日本バーカーライジング里見社長が今回会長になられた表面技術協会は、正に表面処理技術を多岐にわたって研究する一種の学術団体であり、多くの大学の先生方がいろいろなテーマを持って参加されています。また日本パウダーコーティング協同組合(パウダー協)さんは、全くその通りの粉体塗装関連での会社の集まりで約90社が名を連ね常に相互の情報交換を行っております。

事とされていく多くの会社の参加を仰ぎ交流を図っていける団体となつて欲しいと思っております。

団体長あこがれ

CEMAの正会員のみならず賛助会員、また新たに設定されたNET会員など、参加の枠や会費などのハードルを全面的に見直し、広く会員の参加を募り始めております。早くも15社あまりの参加表明をいただき最終的には50社を目標に、現会員の皆様方のご協力を仰ぎつつ増強を成し遂げていきたいと思っております。

塗装(Finishing、Coating)という大きな旗の下に、様々な会社のご参加をいただきつつ幅広い活動を展開していけたらと思っております。なにとぞ関係諸団体様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。暑い夏を乗り切つて、さわやかな季節をさわやかに迎えたものです。

よろしくお願い申し上げます。